

2022年度 自己点検・評価チェックシート 学部・研究科名：社会科学研究科

※学部・研究科ごとに作成してください。

確認事項1 3つのポリシー		
(1) 3つのポリシーを教授会・運営委員会等で確認した	☒ 確認した	2021 年 6 月 会議名：研究科運営委員会
	☐ 確認していない	年 月 確認予定
(2) 3つのポリシーは学生や社会に公表されている	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：

確認事項2 学修成果		
(1) 学修成果を設定している	☒ 設定している	⇒(2)、(3)を記入
	☐ 設定していない	年 月 設定予定
(2) 学修成果の内容	☒ 各学部・研究科の DP と関連付けて設定している ☒ 複数の方法で根拠に基づいて測定することが可能である ☒ 知識、スキル、態度・志向性をバランスよく含んでいる ☒ 「学生は、～することができる」といった形式にするなどわかりやすい記述となっている	
(3) 学修成果を明示している	☐ 明示している	☐ 要項 ☐ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☒ 明示していない	2022 年 12 月 明示予定

◆明示している学修成果（昨年度報告している箇所もご記入ください。ホームページ等のリンクではなく、学修成果をご記入ください。）

修士課程

社会科学研究科（修士課程）では、修了時に身に付けておくべき能力を以下のように定める。

学修成果1 自分の専攻する専門分野において高度な知識を持ち、新たな発想や深い洞察を展開する能力を身につけている。

現代日本学研究

：人文科学と社会科学を対話させながら、近代以降日本が蓄積してきた多様な学知を総合的に捉え、普遍性を有する世界の公共財としての「現代日本学」を構築し、広く現代日本を発信できる。

グローバル市民社会研究

：各国の市民社会の現状を法的側面、政治的側面、文化的側面から検討し、市民生活における制度のあり方を考察することにより、世論の合意形成と政策手段について、理論的、実践的に研究し、21 世紀の市民社会のあり方をグローバルな視点から探究できる。

国際協力研究

：国家間の関係に力点をおいてきた国際関係研究をグローバルな視点に転換させ、理論研究および生活実践の場を地球共同体に求め、平和な世界を実現するための国家、地球間関係のあり方を理解し、紛争解決、平和構築、国際協力を学際的に研究できる。

サステナブル開発研究

：人間の経済、社会活動と自然、環境との調和の視点から、未来の地球規模の問題を解決することを目標とし、理論的、実践的、学際的に提言を行うことができる。

公共・社会政策研究

：現代社会の公共領域、産業組織における政策形成のあり方、政策主体、具体的な政策手段について研究し、グローバル化の進展と経済・産業構造や社会構造の変化を適切に把握するなかで、政策の形成と展開を追及できる。

学修成果 2 広く他の分野においても課題を理解し、批判しうる力量を身につけている。

学修成果 3 さまざまな領域の知をコーディネートして、総合的な視野に立った問題の発見・設定と考察・解決ができる能力を身につけている。

博士課程

社会科学部研究科（博士後期課程）では、修了時に身に付けておくべき能力を以下のように定める。

学修成果 1 自分の主とする専門分野で有する高度な知識をより深め、新たな発想力や深い洞察力を基にして専門知識と融合させ、独創的な研究能力を身につけている。

現代日本学研究

：人文科学と社会科学を対話させながら、近代以降日本が蓄積してきた多様な学知を総合的に捉え、普遍性を有する世界の公共財としての「現代日本学」を構築し、広く現代日本を発信できる。

グローバル市民社会研究

：各国の市民社会の現状を法的側面、政治的側面、文化的側面から検討し、市民生活における制度のあり方を考察することにより、世論の合意形成と政策手段について、理論的、実践的に研究し、21 世紀の市民社会のあり方をグローバルな視点から探究できる。

国際協力研究

：国家間の関係に力点をおいてきた国際関係研究をグローバルな視点に転換させ、理論研究および生活実践の場を地球共同体に求め、平和な世界を実現するための国家、地球間関係のあり方を理解し、紛争解決、平和構築、国際協力を学際的に研究できる。

サステナブル開発研究

：人間の経済、社会活動と自然、環境との調和の視点から、未来の地球規模の問題を解決することを目標とし、理論的、実践的、学際的に提言を行うことができる。

公共・社会政策研究

：現代社会の公共領域、産業組織における政策形成のあり方、政策主体、具体的な政策手段について研究し、グローバル化の進展と経済・産業構造や社会構造の変化を適切に把握するなかで、政策の形成と展開を追究できる。

学修成果 2 幅広い分野における課題への理解、批判力に基づき、さまざまな領域の知をコーディネートして、総合的な視野に立った問題の発見・設定と独創的且つ革新的な考察・解決ができる能力を身につけている。

確認事項 3 学修成果の測定方法の設定		
(1) アセスメント・ポリシーを設定している	☐ 設定している	⇒確認事項(2)、(3)を記入
	☒ 設定していない	2022 年 10~11 月 設定予定
(2) アセスメント・ポリシーの内容	☐ 学修成果と測定方法の関連性が明確になっている ☐ 学修成果を複数の方法（可能な限り「直接評価」と「間接評価」の組み合わせ）で測定する ☐ 測定時期を明確にしている ☐ どの水準をもって達成とするか学部・研究科内で合意している	
(3) アセスメント・ポリシーを明示している	☐ 明示している	☐ 要項 ☐ HP ☐ パンフレット ☐ その他（ ）
	☐ 明示していない	年 月 明示予定
◆明示しているアセスメント・ポリシー（別紙での提出も可）		

< 3つのポリシー・カリキュラム・入試制度の変更 >

※2021 年 10 月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。本チェックシートの別項目で記載している場合は不要です。

項目	変更時期	変更内容	変更理由
入試制度の変更	2023 年度	科目等履修生の受入れについて、履修可能科目数を各学期 7 科目から 2 科目に変更	授業に与える影響を考慮したため。
入試制度の変更	2023 年度	外国学生入試を一般入試に統合し、推薦状の提出を一律不要化	留学生にとってわかりにくかった受入チャネルを一本化するため。

※以下は該当する学部・研究科のみ記載

確認事項 3-1 2020 年度認証評価における指摘事項への対応① 指摘事項：学位授与方針を学位課程ごとに設定していない		
該当箇所：基幹理工学研究科、社会科学研究科、環境・エネルギー研究科、人間科学研究科		
(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 前回報告で対応完了済	(2) を記入
	☐ 前回報告以降に対応もしくは修正	年 月 会議名： ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の学位授与方針を公表している	☒ 公表している	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表していない	公表予定時期：
(3) 変更後の内容		

確認事項 3-4 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応④ 指摘事項： 教育課程の編成・実施方針を学位課程ごとに設定していない。		
該当箇所： 政治学研究科、法学研究科、文学研究科、商学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、社会科学研究科、人間科学研究科		
(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 前回報告で対応完了済	(2) を記入
	☐ 前回報告以降に対応もしくは修正	年 月 会議名： ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の教育課程の編成・実施方針を公表している	☒ 公表している	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表していない	公表予定時期：
(3) 変更後の内容		

確認事項 3-7 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応⑦ 指摘事項： 学生の受け入れ方針を学位課程ごとに設定していないため、これを定め公表するよう是正されたい。		
該当箇所： 政治学研究科博士後期課程、経済学研究科、法学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、社会科学研究科、スポーツ科学研究科		
(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 前回報告で対応完了済	(2) を記入
	☐ 前回報告以降に対応もしくは修正	年 月 会議名： ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の学生の受け入れ方針を公表している	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：
(3) 変更後の内容		

※確認事項 3-2、3-3、3-5、3-6、3-8、3-9、3-10 は該当なし